

コミュニティ静岡

あなたのまちの
コミュニティ活動情報誌

2014
7月
No.135

千年の森保全で交流、学習の場づくり



それっ引っ張れ！ 立ち木の皮むき間伐体験の様子 西伊豆町活性化協議会「西伊豆自然防衛隊里山活動班」(西伊豆町)

▼西伊豆町自然防衛隊(会員数13人、男7女6)は、荒廃した森林を健康にし、CO₂吸着の森づくりを通じて健康体験・自然体験などの交流場所づくりを進めている。

▼去る4月19日(土)、立木の皮むき間伐体験と頂上までのトレッキングを楽しむ「第7回集まれもりもり探検」を催した。この時期、水揚げが著しい杉の除間伐木に印をつけ、立木のまま根元の皮に鋸を入れ、上方に向かって皮を剥ぎ、立木が枯れるのを待って間伐するという体験である。昼食には、女性会員が地元の食材で作る山海汁を味わい、頂上(大鐘山420m)まで植物観察をしながらトレッキング。広場には間伐材で作製したベンチ、ブランコなどが設置されている。

▼毎月第1、第3土曜日には、会員が人工林の除間伐、歩経路の整備、景観、広場づくりを行っている。その時出る間伐材の売り上げで、お弁当を出せるようになった。また、森づくりや自然とのふれあいなど、地元の幼小中高校生の体験学習の協力もしている。

▼活動拠点の千年の森は町有林だが、かつて栄養失調状態だった。現在、会の管理により豊かな森となってきている。今後は、観光誘致のアクティビティとして町の活性化にも活用できたらと考えている。「もりもり探検」は、11月にも開催予定。
◇代表：三矢 進さん(問合せ・☎0558-52-0830)

【情報提供・鈴木深雪】

Contents No.135

| | | |
|---------|-----------------------------------|-----|
| 各地の活動 | ●西伊豆町..... | 1 |
| クローズアップ | ●地域里山の再生～自然あふれる住みよい地域社会～(菊川市) | 2 |
| 専門委員コラム | ●「隼より始めよ～身近、自ら行動～」でコミュニティ再生 川口良子氏 | 3 |
| 各地の活動 | ●熱海市・裾野市・伊豆の国市・富士市・藤枝市... | 4~5 |
| 地域訪問記 | ●いきいきとした笑顔の見える繋がり(静岡市清水区) | 6 |
| コミねっとから | ●キラリ！コミねっと、コミねっと総会報告..... | 7 |
| コミ推協から | ●コミュニティ活動集団など..... | 8 |





地域里山の再生

～自然あふれる住みよい地域社会～

NPO法人里山再生クラブ (菊川市)

おそるべし放置竹林の害

竹林という言葉に、美しい景観、日本庭園、風情など言わば日本の原風景のようなものをイメージしていた私にとってショッキングな出来事であった。取材してみると、竹は害木でもあったのだ。

以前はタケノコや竹材など、資源として育てていた竹も、安価な中国などからの輸入品や、プラスチックなどの代替え素材が使われるようになり、需要が減ってきている。同時に農林業の担い手の高齢化が進み、竹林が放置されるようになった。その結果繁殖力の強い竹は里山を占拠していたのである。

成長の速い竹は光を遮り主要な樹木の成長や下草に影響を及ぼし、鳥類、昆虫などの種類を減らし、山の栄養を奪っていく。樹木が育たねば山の保水力も減少し災害にも繋がり、害獣も里に下りてくる。

また、竹は根が浅く広く伸びることから、急斜面の竹林は地滑りを起こしやすいのだともいう。

風が吹けば桶屋が儲かる

「風が吹けば～」流に言えば、「竹林を放置すると山が弱る」「山が弱れば川が弱る」「川が弱れば海が弱る」「海が弱れば人間が・・・？」ということになるのだろうか？ そういえば以前、海の漁師が川上の山林の手入れをしているというニュースを目にしたことがある。



作業前



害獣との緩衝地帯ができた

竹林の拡大から里山を守る

そんな現状に立ち向かう人々がいる。菊川市倉沢に本拠を置き、堀守夫さんを代表とする「NPO法人 里山再生クラブ」の面々である。現在取組中の現場を見せてもらった後、自宅にある事務所で堀さんにお話を伺った。

堀さんは定年を前にこの事業を計画し、定年後すぐにクラブを立ち上げ今年で7年目となる。自



薄暗い竹林。連携プレーで伐採作業が進む

らの人脈から会員も増え、現在は58人ほどの会員がいる。竹の伐採は8人のメンバーがいて、今は4人一組で2か所の現場で取り組んでいるという。

見せてもらった現場では結構な急斜面にもかかわらず、チェーンソーを巧みに操り高さ15mほどもあろうかという竹を切っていた。竹が切り倒され少し開けた場所を見ると、7～8mより下の部分の枝は全て落ち、ただひょろひょろと上に伸びただけの樹木が残っていた。竹害の恐ろしさを見た気がした。

クラブでは毎年10ヘクタールほどの里山の竹を切り、森を守っている。これは県森林計画課が平成18年度から10年計画で進めている「森の力再生事業」（財源は「森林（もり）づくり県民税」）の一部をクラブが請け負っている仕事である。作業はほぼ毎日あり、これからの季節、暑さや、蚊などとも戦っていかなくてはならない。

早く大きくな～れ

クラブとしては、こんなことも手掛けている。3年ほど前、菊川市内の竹林所有者から1ヘクタールほどの竹林を「市民憩いの場にしたい」という申し出を受け、竹を伐採し広場にした。そこに地域の有志とクラブのメンバーが中心になり、一昨年100本、今年40本の桜の苗木をスコップ片手に植樹した。堀さんも早く桜が育って地域住民の方々に楽しんでもらえるよう成長を見守っている。



子供に人気の竹ぼっくり

竹の学校・竹の魅力

竹を悪者のように書いてきたが、竹が悪いのではない。放置された竹林が悪いのだ。クラブでは竹の魅力も発信している。竹林の管理と併せて、竹にまつわる文化、遊び、食、体験作業などのイベントにより、楽しみながら放置竹林を整備する一連の取り組みを「竹の学校」と言い、同会も松林工業薬品㈱や県志太榛原農林事務所と協定を組み、さまざまなイベントを行っている。

4月のタケノコの季節には、「春の森づくり大作戦」や「里山祭り」で竹の伐採をはじめ、タケノコ掘り、竹細工、山菜料理、タケノコご飯や汁など旬のごちそうを。

秋には菊川市文化祭に協力し、里山活動の報告をしたり、竹細工（竹ぼっくり、竹馬、竹かごなど）の販売をしたりする。

このクラブのメンバーにはさまざまなその道の達人がいるようで、将来の活動の可能性は大きく広がる。「ミナクルふれあい菊川の里」での竹炭の販売などもその一

例だ。クラブでは、こうした仲間たちや、地域住民、他のNPOとの交流を何よりの楽しみとし、日々「森の力再生事業」「森の保全事業」「遊休地活用事業」に取り組みながら、「自然あふれる住みよい地域社会の実現」に向けて活動している。

代表：堀 守夫さん（☎0537-36-0714）

【情報提供 橋本哲夫】



楽器を奏で、イベントを盛り上げる会員

レポート・三戸部 孝 編集委員

■推進専門委員コラム

「隼より始めよ～身近、自ら行動～」でコミュニティ再生

合同会社デザイン・アープ代表 川口良子 氏



～コミュニティ活動で体質改善～

コミュニティの弱体化の悪影響が多方面から指摘されるようになって久しい。経済的豊かさの獲得や都市化の進展などにより、地域維持や管理における住民の役割は小さくなり、自治会に代表される地縁的な活動は、わずらわしさを理由に敬遠される傾向を強めていった。また、職住の分離や車社会が進むことで、地域の人と出会うことなく移動する生活が日常化した。こうした社会環境の変化が「人と触れ合う機会の減少や人間関係の希薄化」につながっていった。コミュニティ弱体化の原因は複層的で単純ではない。

本誌に寄せられる各地の様々な活動は、長年にわたって徐々に悪化させてしまった“コミュニティの体質”の改善行動であり、徐々に薬効を発揮する漢方薬のような役割だと感じる。それぞれの立場で自らが行動し、「人と触れ合う機会」を意識的に作り続けていく地道な活動の価値を再確認したい。



筆者自宅のビフォー＆アフター。塀の高さ＝遮断性の高さ？！

～身近な空間でも外への意識を～

以前、我が家の周囲はブロック塀に囲まれていた。自宅の改築を契機に、それを撤去した。その後、夫が庭作業、特にバラづくりにいそしんでいる。バラ最盛期には散歩コースに我家を組み込む人もいようである。“きれいですね”“ありがとうございます”の会話が自然と交わされる。ブロック塀で囲っていた時は、めったに人は通らなかった。「コミュニティの醸成」というと、仰々しい響きになるが、原点はこういうことだと思う。開かれた庭での作業は、それだけで、外とのふれあいの機会を生む。プランターで、花や緑を外へ向けて置くだけでも良い。身近な空間における“外との関係づくり”を意識し、行動する人が増えることが大切である。

まちから・むらから

●熱海市



青いユニホームを着て案内しています

湯～遊～バスで、お・も・て・な・し 湯～遊～バスボランティアの会

▼湯～遊～バスボランティアの会は、年中無休でバスに添乗し、各停留所周辺の観光スポットの見どころや歴史などをユーモア交えて説明する全国でも珍しい活動

をしている団体である。乗車した観光客の満足度は高く、熱海を訪れた際には毎回乗車するという観光客もいる。

▼この活動は、市制施行60周年記念の一環として、平成10年3月よりバス3社の協力を得て実施。16年間に56万人の

観光客が利用した。

当初は、ボンネットバスで運行。坂道の多い熱海を1時間30分かけて周ると、トイレに冷や汗をかいたり、酔ってしまう乗客がいたのも良い思い出である。また道路工事が多く停まってしまうこともあるが、その時はガイドの腕の見せ所。乗客の満足が高ければ大きな拍手となって返ってくる。その拍手が会員にとって生きがいや健康の源になり、観光地熱海に役立っていることが、一層の励みとなっている。

▼現在14人の会員が毎月5日間程度、交替でガイドに励んでおり、「一番大変なことはシフト調整」と後藤代表が言う。皆さん、旅の思い出に湯～遊～バスを是非御利用ください！

◇代表：後藤明夫さん（問合せ・☎0557-27-1103）

【情報提供・菅沼敏男】

●裾野市

笑いは妙薬、幸せ笑いヨガ

▼土曜日のお昼前、裾野市民文化センターの2階から大きな笑い声が聞こえてくる。裾野ラフタークラブは、ラフター（笑い）とヨガの呼吸法を合わせた有酸素運動の活動を通じて笑いのある明るく楽しいコミュニティを目指している。

▼月2回の「幸せ笑いヨガ教室」では、4歳から85歳までの仲間がラフターネーム（愛称）で呼び合い、一緒に笑い合っている。

人間笑うとポジティブになり、免疫力向上、ストレス解消などの効果もあるといわれ、「犬が吠えても笑っちゃう」「風邪を引かなくなった」「若返ったねと言われる」など効果を実感している。また、指先を使って優しくタッチすることにより、心と身体の緊張をほぐすタッピングタッチというケアも行っている。

▼会では、「ヨガ教室」「タッピングタッチの基礎講座」認知予防ゲーム「スリーAリーダー養成講座」を主催するほか、高齢者施設やふれあいサロンなどでのボランティア活動にも取り組んでいる。

▼昨年度、裾野市パートナーシップ事業の助成金を活用し、ボランティア活動の充実を図ったところである。 <http://ameblo.jp/rohas-life/>

◇代表：服部貴江さん（問合せ・☎090-6092-8524）

【情報提供・志田瑞代】



アッハッハ〜、ストレス発散

●伊豆の国市



厳かな雰囲気の中、語られる

古里の昔話よ、次世代に繋がれ 伊豆の国昔話をまとめる会

▼伊豆の国昔話をまとめる会は、「伊豆の国市に残されている昔話を知って欲しい、次の世代の人たちに古里の昔話を引き継ぎたい」そんな

思いで昔話を語り伝える活動をしている。

▼春と秋の年2回、国の重要文化財江川邸の「塾の間」をお借りして、昔話（民話）を中心に語りの会が行われている。かつて、江川坦庵公が門弟たちに講義したといわれる「塾の間」で、参加者が思い思いに昔話を聞く雰囲気は、語りの場にふさわしい。

今年で4年目を迎えるが、会員の語りは今もって素人の域を出ていない。それでも、そんな素人の語り新鮮でいい！などと言うお世辞？に励まされ、5月17日に第7回「伊豆の国市昔話を語る会」を開催した。今回も子供から年配の方まで男女を問わず多くの方に御来場いただいた。

▼会では、活動が仲間だけの自己満足に陥らないよう、毎回1人のゲストに出演をお願いしている。また、伊豆弁を残したいという思いから、毎回「伊豆弁で語る昔話」をプログラムに組み入れている。

▼会員が語った昔話を、出版したいと思っているが資金の確保が難しく、実現は先になりそうだ。

◇代表：西島 保さん（問合せ・☎055-948-4119）

【情報提供・小川昌年】

各地の活動

各地の活動情報



● 富士市



朝の清々しい空気は、早起きの特権

朝の清々しい空気は、早起きの特権は2つ。地区の美化活動と水戸島八幡社で行うラジオ体操である。
▼美化活動では、県や市の支援を受け、早川の土手の管理や花壇の手入れを行っている。毎年3月には道路の両側に黄色や白のラッパ水仙が帯のように咲き誇り、根元にはパンジー

美化活動とラジオ体操で声掛け合うまちづくり 水戸島下区グリーンクラブ

▼富士市水戸島下区のグリーンクラブは、「地域のためにできることはないか、地域の人たちと声を掛け合いたい」そんな思いで発足した。主な活動

やアリッサムが顔をのぞかせる。ラジオ体操は、毎日20~25人の地区住民が気軽に声を掛け合い参加している。毎日顔を合わせることで、知らない住民同士が安否を気遣うようになった。終了後は、自然とおしゃべりに花が咲き、時には手作りお菓子や豚汁が振る舞われることもある。夏休みには子供たちも参加し、大勢の人たちで境内は賑わう。

▼発足から6年、区から補助金をいただけるようになった。「この活動が区に認められた証拠」と清水代表は言う。これからのまちづくりはコミュニティづくりであり、そのためには住民参加が不可欠と、今後の活動にも意欲的である。

◇代表：清水武彦さん（問合せ・☎0545-64-2472）

【情報提供・秋山あい子】

● 藤枝市

地元の伝統行事で地域に元気を！

▼岡部宿まちづくり協議会は、まちの歴史文化財「岡部宿大旅籠柏屋（国の登録有形文化財）」の来館者増加と地域の活性化に貢献することを目的に、地元の有志を募って平成9年に発足した。

▼現在、協議会、行政および民間企業が参画した連絡会で業務分担し運営を行っている。また、協議会では住民と協働で、1月：新春遊楽会、3月：ひな祭り、5月：端午の節句、10月：観月の宴などの伝統行事を年15回程度企画・実施し、集客向上に努めている。これが功を奏したのかまちの訪問客増加につながり、元気なまちになりつつある。特に2月：節分祭の豆まき、7月：七夕祭りの流しそうめんは大変人気があり、多勢の人で賑わう。

▼発足して17年経ち、気心知れた仲間との活動に苦労は無

いが、マンネリ化が否めない。現在、新たな企画はないが、通年の企画事業の中で地元の活動団体に声を掛けるなど、新しい取り組みを常に模索している。地元の皆さんが本気でまちづくりに参画し、活動していることが印象的である。

<http://kasibaya.web.fc2.com/>

◇代表：石田 俊さん（問合せ・☎054-667-0219）

【情報提供・市川勝弘】

岡部宿まちづくり協議会



餅つきイベントの様子

地域活動情報

この詳細はホームページでご覧になれます（アドレス <http://www.sizcom.jp>）

| 市町 | 活動名 | 主催者 | 月日 | 場所 |
|-------|--------------------------|------------------|-----------------------------|--------------------|
| 東伊豆町 | Goody`z Dance&Music 2014 | Goody`z実行委員会 | 平成26年5月31日(土) 年 1回 | 東伊豆町総合グラウンド特設会場 |
| 伊東市 | いつまでも輝き隊～伊豆高原(in十字の園) | 伊豆高原十字の園 | 平成26年4月10日(木)～6月26日(木) 週 1回 | 伊豆高原十字の園 |
| 三島市 | ふるさとガイドと歩く三島宿西遊散策コース | 三島西地区自治会連合会 | 平成26年5月5日(月) | 三島市内 |
| 御殿場市 | 公園まつりでコミュニティー | 富士岡公園まつり実行委員会 | 平成26年5月24日(土) 年 1回 | 富士岡公園 |
| 静岡市葵区 | 薫科の魅力をイベントで発信！わらびご祭り | わらびご運営委員会 | 年 2回 春と秋 | 薫科都市山村交流センター「わらびこ」 |
| 藤枝市 | せとやの宝物で元気なむらづくり！ | 瀬戸谷生き生きフォーラム | 通年 | 藤枝市 藤の瀬会館 他 |
| 島田市 | 金谷の魅力視察会 | 金谷コミュニティ委員会 | 平成26年3月15日(土) | 島田市牛尾(金谷) |
| 掛川市 | 「もったいないら」で福祉の橋渡し | 掛川市ボランティア協議会大東支部 | 通年 | 大東市民交流センター |
| 磐田市 | 駅周辺の清掃ボランティア | 真如苑 有志ボランティア | 毎朝5:00～5:30 | 磐田駅とその周辺 |
| 菊川市 | こいのぼりコンサート | みなみやまコミュニティ協議会 | 平成26年4月29日(火) | 小笠みなみやまコミュニティセンター |
| 浜松市南区 | ルディックウォーククラブ発足!(N・Wクラブ) | 白脇地区社会福祉協議会 | 月 2回 | 白脇協働センター、遠州灘海浜公園 |



取材に応じる4人の女性スタッフの皆さん

地域訪問記

いきいきとした笑顔の見える繋がり

堂林むらさき倶楽部 (静岡市清水区)

静岡鉄道桜橋駅を南に向かうと、学校や公園を過ぎて閑静な住宅街に入る。開け放された堂林自治会館から三味線の音が響いてきた。代表者の望月さんが、明るく迎えてくれる。

地域の繋がりを求めて

堂林地区が、隣の神田町と合併した折、「地域のつながりは大切である。住民の孤立を防ぐために何かできることはないか」と思案した自治会長から提案があった。会社勤めを終えた人、子育て後に地域のつながりから離れている人、家にこもりがちな高齢者を対象に「自治会の中で気軽に参加出来る、顔見知りを作れるような活動を始めないか」との提案を受け、主に高齢者(65歳以上)を対象として活動するむらさき倶楽部が発足した。

現在、4人の女性スタッフで企画し、月1回の活動をしている。自治会の組織に属しているため、自治会三役会や協力会などの協力が得られる。対象者は約200人おり、内容は老人会やデイサービスとは一線を画し、多種にわたる企画の中から、自分の興味を持つものにそれぞれ参加できるよう工夫している。開催日のお知らせは、案内兼申込書を自治会内で回覧し、HPでも見ることができる。

お誘い合わせの上、お気軽にいらしてください!



楽器に触れて、楽しむ音楽セラピー

スタッフ会議は、望月さんのアイデアから始まる。若い彼女のアイデアを最大限に活かし、少ない予算で効率的に実現していくのが、熟年パワーのスタッフだ。

ゲストを迎えてのお茶会には、主婦の知恵を駆使して「この予算でこんな素敵なティータイム」と喜んでもらった。エピソードは尽きない。

会が一番力を入れている音楽セラピーは、参加者も多く好評だ。坂本九など親しみやすい曲を選び歌うほか、楽器演奏では自分のパートを持つなど工夫している。参加者は音楽に対しとても積極的で、楽器に触れることにも興味を示す。むらさき倶楽部の活動時に、発表の場を持ったことにより向上心が増し自信も付けたので、次の目標は外に向けての発表会とのこと。

また、自治会のお祭りで、得意のバルーンアートを皆で



県警音楽隊で指揮者体験

作り子供たちにプレゼントしたり、自治会の防災訓練では例年おにぎり作りを担当するなど、行事の中で主体性を持った参加をしている。



子供に大人気のバルーンアート

堂林「話・和・輪」で絆を深める ~互助の精神・協力~

活動を始めて7年目。取材中のスタッフの会話から、参加者だけでなくご近所同士の様子を気遣う会話が増え、「顔見知り」から「知り合い」に発展している様子が伺える。

堂林自治会のスローガンは、「皆でつくろう温かいまち堂林 安心・安全」。スローガンを軸としながら生活に必要なことや周りの人のささやかな喜びを一人一人が意識して活動している。また、会では、地域に溶け込む活動をするため、参加者に合わせた柔軟な運営を心がけている。そして自分の役割があることは、高齢者にとっても生きがいや楽しみにつながるのではないかと取材をして感じた。

もっと多くの男性の参加や、声かけしたい方へのアプローチの方法、スタッフの確保など課題はあるようだが、明るさはピカイチ!!信頼と協力、思いやりの輪で活動が広がってほしい。

※会では、ご家庭で不要になったハンドベルやトーンチャイムを探しています。

◇代表: 望月由美子さん(問合せ・☎090-7683-9265)

【情報提供・望月由美子】



振込詐欺防止講座



お腹から声を出して気分爽快



レポート・萩原美枝子 編集委員

キラリ!コミわっと

きっかつけは

百歩の会は、旧富士川町出身のコミュニティカレッジの修了生が仲間呼びかけ、平成18年に立ち上げたボランティアグループである。

会では、横のつながりを広めるため、コミカレ修了生以外にも参加を呼び掛けており、現在19人で精力的に活動している。

健康ウォーキングコースを企画提案

富士川地区の名所旧跡や江戸時代からの旧東海道沿



1周6km所要時間約2時間

いの史跡は、意外にも認知度が低い。そこで、岩淵地域の名所旧跡を探訪するとともに、知られていない絶景ポイントの美しさを発信することとした。市のスポーツ振興課が進めている健康増進のための健康ウォーキング「歩く健康づくり一万歩」のコースに新たに

加えてもらうため、コミカレ富士川とともに名所旧跡と絶景ポイントを巡るコースをまちづくりセンターへ提案した。それを受けた同課によって、看板、案内板が設置されるなど「富士山を望みながら岩淵間宿と富士川を巡る」コースが

コミカレ・ねっとわーく会員の活動紹介します!

コミカレ受講生仲間で生まれた会

百歩の会 (富士市)

整備された。

まちづくりセンターが主催する「歩く健康づくり一万歩」には会員が案内し、絶景を堪能していただいている。「富士市にもこんなに素晴らしい景色があるとは知らなかった」参加者の一言がうれしい!多くの人にもっとその素晴らしさを知っていただきたい。



富士山を後ろに従えて

これからも

発足して8年。会員は、同窓生が多いため会員の高齢化という問題がある。しかし「百歩」の名に込めた「あらゆるボランティアをやろう」という意気込みと「出来ることを、出来るときに楽しみながら」をモットーに今後も活動する。一万歩のコースに新しいコースを提案するほか、子供の健全育成、地域おこしなども展開していく。

コミカレ・ねっとわーく総会を開催
30周年記念事業を決定!

コミ推協のリーダー養成事業「コミュニティカレッジ」修了者で組織する「コミカレ・ねっとわーく」(会員500人)では、6月7日、焼津市大井川公民館で、県内各地から会員200人が出席して、平成26年度の総会を開催した。



沖会長の挨拶

全体総会では、本年度コミカレ・ねっとわーく30周年を期して、30周年記念事業を実施することを決定した。その他、東部、中部、西部

の支部ごとの総会も行い、各種事業や研修計画などの審議を行うと共に互いの連携を誓いあった。

また、午後のアトラクションでは、大井川ジュニア合唱団が可愛らしい歌声を披露し、その後は、平田厚氏による研修講演が行われ26年度も賑やかなうちに閉会した。



「月の砂漠」の他、多数披露



平田氏の研修講演

コミせん家

のりづき・りま



編集・発行

静岡県コミュニティづくり推進協議会
 〒420-0856 静岡市葵区駿府町1-7-20
 総合社会福祉会館3階
 TEL 054-251-3585
 FAX 054-250-8681
 URL <http://www.sizcom.or.jp>
 E-mail sizucom0829@po.across.or.jp
 地域情報お寄せ下さい。

コミュニティ活動集団11集団を指定

平成26年度の「コミュニティ活動集団」は、次の11集団を指定しました。地域で新しいコミュニティの風を巻き起こす活動を期待しています。

- 町屋ふれあい部会（御殿場市）
地区民の交流を通して元気で明るい地域づくりを図る
- 裾野市みのり会（裾野市）
婦人会で行う事業の側面的協力、親睦と教養の向上
- 大平郷土史研究会（沼津市）
地域史の研究と伝承・史跡の保存などによる地域の活性化
- 志多町自治会カッパ部会（沼津市）
水神さんカッパまつりで地域の和を
- 百歩の会（富士市）
あらゆるボランティアをやる
- 富士宮少年少女合唱団（富士宮市）
歌を通して児童健全育成をめざし、広く活動する
- コミカレ・ねっとわーく富士宮（富士宮市）
会員同士の絆を深めよう
- 昔ばなしと朗読研究会（かたかご会）（静岡市）
生涯青春でありたい・大きな声を出してみよう・方言の研究
- 助宗・どんど焼の会（藤枝市）
どんど焼を通じて稲作文化に触れよう
- まちづくり団体 長上村役場（浜松市）
子どもたちの未来のために、よりよい地域作りをします。
- 細江まちづくり協議会（浜松市）
豊かで住み良い魅力的なコミュニティづくりを目指す

ボランティアガイダンスを役立ててください!

地域や職場などでボランティアに関する情報が欲しいと思ったら静岡県ボランティア協会、または、県市町社会福祉協議会のボランティア担当者にご連絡ください。

ボランティアガイダンスも好評配布中です!

詳しくは、静岡県ボランティア協会まで
 TEL.054-255-7357
 e-mail: evolnt@mail.chabashira.co.jp
 URL: <http://www.chabashira.co.jp/~evolnt>



コミュニティ 推奨から

今年のサマ―は6億円!!

でっかい夏をまるかじり!

サマ―ジャンボミニ6000万

6000万円×90本(発売総額270億円・9ユニットの場合)

サマ―ジャンボ6億円

1等前後賞合わせて6億円
1等4億円、前後賞各1億円

7月4日(金) 同時発売

発売期間 7月4日(金)~7月25日(金)
抽せん日 8月5日(火)

2014年市町村振興宝くじ
一般財団法人 全国市町村振興協会

この宝くじの収益金は市町村の明るく住みよいまちづくりに使われます。